

第1回 安曇野市男女共同参画推進審議会 会議録（概要）

- | | |
|-------------|--|
| 1 委員会名 | 安曇野市男女共同参画推進審議会 |
| 2 日 時 | 平成 22 年 6 月 21 日（月）午後 1 時 30 分から午後 4 時 |
| 3 会 場 | 長野県安曇野庁舎 402 会議室 |
| 4 出席者 | 湯澤委員、降旗委員、望月委員、竹内委員、高木委員、浅川委員、小松委員、 谷委員、稲葉委員、安藤委員、尾台委員、滝沢委員、内田委員、 浅見委員、山田委員、宮本委員 (欠席) 甕委員 |
| 5 市側出席者 | 宮澤市長、土肥部長、古幡課長、堀内副参事、野口主査 |
| 6 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 傍聴人 | 0 人 報道機関 0 社 |
| 8 会議概要作成年月日 | 平成 22 年 6 月 23 日 |

会 議 録

◇ 会議の概要

- 1 開会（古幡課長）
- 2 委員の委嘱について（宮澤市長）
- 3 市長あいさつ（宮澤市長）
- 4 自己紹介（委員、事務局）
- 5 協議事項
 - (1) 会長、副会長の選出について
 - ・委員の互選により、会長に山田委員。副会長に尾台委員を選出。
(山田委員、尾台委員からあいさつ)
 - (2) 安曇野市の男女共同参画の推進について
 - (①～⑥を事務局から説明)
 - ① 安曇野市男女共同参画推進条例について
 - ② 安曇野市男女共同参画計画（H20～24 年度）について
 - ③ 推進体制について
 - ④ 審議会の役割と委員の活動について
 - ⑤ 今後の推進計画について
 - ⑥ その他

【委員意見等】

（会長）ここで、先ほどの市の説明と、それから今の 21 世紀職業財団からの説明も含め、また、前回までの審議会の委員の皆様からお出しいただいた意見等、何か委員のご意見があったら頂戴したい。

（委員）安曇野市で男女共同参画に関する住民の方の意識調査を実施したアンケートの数字、その内容は確認できるか。男性が外で働き、女性は家事育児といった意識が 7 割以上あったよ

うに思うが、安曇野市だけの特異なことか、そういった数字を教えていただければ、また、今度皆さんの勉強にもなると思う。

(会長) 事務局ではいかが。

(事務局) ただ今のご意見は、市の男女共同参画計画を策定する際の、平成 19 年 3 月に編集した、男女共同参画社会に関する安曇野市の市民意識調査のご照会をいただいたと思う。これまで、その内容をホームページ等で紹介しているが、“平等ではない分野が、まだまだ多くある”というご意見は高い数値が示されていたような記憶がある。

冊子としての残部数は少ないがデータとして残っている。また機会があれば、この以前にとった(アンケートの)報告書について示したい。

(会長) 確かにアンケート結果の中には、驚くような結果もあったように思う。しかし、“結果だけがすべてではない”という思いで、市の計画策定に望んだ記憶がある。他にはいかがか。

(委員) 今年の男女共同参画フォーラムの案内があった。社会的には、まだまだ男女共同参画意識の高揚に力を入れていかなければならないのではないかなと思う。

また、人権擁護委員として「人権の花運動」を実施する。これは三郷小と豊科北小が今年、協力校になり、花を苗から育てていく状況を観察し、作文も書いていただくことになっている。

そういった行事や事業を、地域の人たちにどれだけ知ってもらえるかということを考えている。地域イベントも、どれだけ周知されているかということのを時々考えさせられる。

是非、PR活動に行政としても取り組んでいただきたい、現在の取組みも教えてほしい。

(事務局) フォーラム等を含めたイベント等の周知、PR方法について、特に今回のフォーラムについては、人権擁護委員さんの部会長さんからもご連絡をいただき、各委員さんの年間計画に入れてあるということから、参加について呼びかけチラシも依頼した。人権擁護委員さんの組織に、男女共同参画部会が設置されていることをお聞きして、ご協力をいただいたところである。

PRは難しいが、今回のフォーラムの関係では、当審議会の委員にチラシをお配りしたが、区長会の理事会や、児童館等の子育て支援に係わる方、教育委員会の社会教育課の所管する組織、子育て支援と社会教育係の関係で、生涯学習係の打ち合わせ会議の折にも周知を依頼した。

また、市と市の男女共同参画連絡協議会との共催であることから、連絡協議会の会員組織として、各地域で活動をされている団体へも、それぞれ 50 部から 150 部のチラシ配布を依頼した。

なお、市の男女共同参画コミュニケーターの皆さんには、お知らせだけではなく、ご協力をいただく立場でご参加いただくよう依頼をした。

その他は、防災行政無線、市民タイムスをはじめ、各新聞社にもチラシ、いわゆる投げ込みで周知をお願いしている。

PRの難しさも痛感しているところであり、お知恵も拝借しPRに努めたい。

(会長) 他には。

(委員) 先ほどの説明資料で、審議会等の女性の割合があったが、安曇野市の職員で男性の数、女性の数、それから男性の管理職の割合、女性の管理職の人数の割合、そういったデータがここにあればありがたい。

男女共同参画の推進事業の母体である「市」の女性の登用がどんな状況なのか、これからの

推進のためにも非常に大切だということで、市の組織自体にも、できるだけ女性の方を採用して、出来るだけ重要なポストにつくよう、どんどん積極的な改正をしていただく、そういう育成にも力を入れることも大事だと思う。

そして人権男女共同参画課の課長さんとはいかないうちでも、女性が係長さん等になれば、また一段と推進する活気も生まれてうまく進むかと、そんなことも期待できるかと思う。ぜひお願いしたい。

(会長) 事務局でいかが。

(事務局) 市の職員に関して、今、手元に細かい資料を持っていないが、市職員は保育士も含め769名いる。そのうち、308名が女性だと思う。係長とか課長、部長の割合については、今、数字を持ち合わせていないので、次回、資料を出したいと思う。

21年度までは、部長職に2人の女性がいたが、退職により部長はいなくなった。課長は新たに(女性が)2名が増え、管理職(女性)の数は21年度も22年度も変わっていない。

また登用については、職員研修等も管理職から管理職以外の者も含めて、事務についての職員研修、それから職員の事務事業を執行する能力の評価ということも合わせて研修をしながら、それぞれが客観的に評価できるような仕組みを整えている。そういった中で適材適所を基本に、女性にも就いていただく体制で進めたい。

(会長) 細かい数字が出ないようだが、事実、(女性の)部長さんが二人そろってお辞めになるというので非常にがっかりしたが、あと課長さんがまたお二人ということで、市長さんもその辺のところには力を入れてやったださっているようである。他にご意見は？

(委員) 先ほどの周知方法であるが、メールをできるだけ利用してほしい。今、商工会でもその問題が多く、何かを周知するために郵送をすると多額の経費がかかる。

ところがメールが可能な会社は6割から7割と言われているので、周知するならメールで十分通用する。全体で3千何百社あるから、メールアドレスをもらえば6割の関係者にメールが届くことになる。これは、情報化に対する企業のPRを含めていろいろな面でいいと思う。

(事務局) 参考にさせていただいき、活用したいと思う。

(会長) 他には。

(委員) 女性が事業所とか職場で活動している姿を見れば、変わっていくこともあるかと思うが、一般的に会合等に行き、責任のある立場を推薦しあう時に、女性自体が、例えば積極的にやれば出来るような人でも、自分から引いてしまうというような雰囲気がよくある。

これはやはり、フォーラムとか、いろいろな推進活動等具体的な活動を通して、意識改革されていくものと思うが、一般的には女性の意識改革も相当必要じゃないかと思う。

フォーラムのような活動を通して意識改革がされ、そういう姿を見て関わってくる住民はいると思うが、まだまだ弱いかなという感じがする。

(会長) これについて事務局で答えがあればどうぞ。

(事務局) 本当に意識改革、男性も女性もというところが基本であり、根っこにあるような気がしている。貴重なご意見をいただいた。参考とさせていただきたい。

(会長) 私の経験からも、長年女性たちの中で、「先に立って」というところで、なかなか引き受けてもらえないことがあった。

県の農政部でも、実際に農業をしている人たちの中で6割以上が女性という状況にあって、

農業委員の中に女性が本当に少ないということで、女性に農業委員をやってもらって、本当に困っていること、何か進めていかなければいけないことは女性農業委員に、ということで、県が非常に力を貸してくれた。

人間というのは、その与えられた場でその場のことを一生懸命勉強しながら、一生懸命やることで、その人も成長するけれども周りもまた成長する。ということで、できるだけのことをやろうと、手を挙げて自ら実践しながら、お願いしてみたらどうかと提案をして、実際に勉強しながらやってきた。

その結果が、今、全国で女性の農業委員の数は長野県がトップである。これは非常に農政部でも力を入れて、女性の農業者の立場として、学習の機会を与えてもらえたということもあったが、やはり女性たち皆が「自分たちが何とかしなきゃならない」という気持ちになった。そこが大事だと思ったので、今のご発言のように、私たちも実際に（男女共同参画連絡）協議会の中でも、地域でいろいろ進める中で、あのせいだからそのせいだからということではなく、自分たちが先頭に立って進めたい。

いろいろな経験をされ、その経験をもとに市と市民とのパイプ役として、活躍ができるお力を持った人たちの集まりとして（男女共同参画）コミュニケーターがあるので、またこれから一緒に、より力のある女性リーダーが育っていければと願っている。

（委員）（市の男女共同参画）コミュニケーターのリーダーをさせていただいている。

先ほど男性の立場から、女性の意識改革が必要ではないかという話があったが、女性の立場からすると、これまでの日本社会の仕組みが、男性や夫の後からついていくのが美しい日本女性の姿というイメージがあり、男性社会から脱却できていないと言いたい。

女性も、もちろん学習していかなければいけないが、ここにお集まりの男性は是非そんな面で、男性社会の仕組み、あり方というところで意識改革をいただければ、女性が活躍できると思うので是非よろしくお願ひしたい。

（会長）では続けて、ご意見があれば頂戴したい。

（委員）数日前のテレビ番組で、若者の就職活動に関する放送があった。その中で女の子たちは、もう就職活動はあきらめて、「玉の輿に」というような放映があった。

これは先ほどのご意見のような意識改革というより、全く別の次元のものになっているのかと思う。

宇宙に行った山崎直子さんのように、限られた分野で、例えば宇宙では、もう全く男女の差別は何もないということを何回も言っておられたようだが、それにしても、やはりしがらみの世界を通過してきたということで、ご夫婦ともに大変な時期もあったというように聞いている。なかなか難しい問題だと思う。

（委員）先ほど、男性、女性といった話があったが、もうひとつ、私の経験では、地域の中に固定した弊害があると思う。

私は 20 年位前に中学校の P T A 役員を務めたが、ある時「この地域では、ここに生まれてここで育った人しか会長さんはできないのですね。」と言われた。

歴代の P T A 会長をみると、全てその方のいうとおりで全部男性であった。今まで女性の P T A 会長はいないので、それもこれから改革していく要素になると思い、次の副会長がその次の会長になると決まっていたので、この次の次はこの生まれではないが優秀な方が必要だ、そ

の方を推薦しようという話で、みなさんで決めたという経過があった。

それは先ほどのように、何かしらの固定観念が地域の中にあるのだと思う。3人の女性区長さんが安曇野市で誕生したとのことだが、今のところ私の地域では女性区長の話は聞かないので、区長は男という固い観念がまだある。そういうことも何らかの形で取り組む必要があるのではないかと思った。

(会長) 他ご意見をどうぞ。

(委員) 私は、公民館長という仕事をさせていただいている。男性であっても女性であっても、その仕事に就いてその仕事の責務を果たしていく、その人の能力はもちろん求められるが、やはり周りの方たちに本当に支えられて、そして仕事をするという面が非常に大きいと思う。

私自身も、決して力があってこのポストで仕事をさせていただいているわけではなく、本当に日々、自分の実力のなさを感じているが、周りの方が本当に支えてくださる。その方々に私は感謝をしながら、仕事をさせていただいている。

この安曇野市の「認め合い、支えあい、輝く安曇野」という言葉、その通りだと思う。やはり、どんな人でもお互いに認め合って、そしてその人格を尊重しあいながら、そして大きな立場でその職務を遂行していく、皆さんと一緒に遂行していく、そういう姿勢が大事ではないかなと思う。

それから先ほどの住民の意識を高めていくということについて、これは公民館などで果たしていく役割がすごく大きいのではないかと考えている。福祉の問題にしる、男女共同参画の問題にしる、いろいろな問題について、本当に地域の人たちの気持ちの醸成等に力を入れていかないと、なかなか世の中は変わっていかないのではないかと感じている。

一歩々、地域を変えていく、そして地域の人たちの意識を醸成していくというか、少しずつ高めていく、変えていく、そのことが大事ではないかなということを感じながら日々仕事をさせていただいている。

(会長) 他にはいかがですか。

(意見、質問等なし)

(会長) では、協議事項を終わります。

6 閉会 (副会長)

制度も大変具体化されてきた。しかし本日のご意見の中にも出てきた「意識高揚」はなかなか難しいというのが現実ではないかと思う。これはどうしても、協働で推進していかないと、うまくいかないのではないかということになる。

以上で、第1回安曇野市男女共同参画推進審議会を閉じます。

閉会 午後4時00分